

一般質問通告書

佐野市議会議長 様

	受付	番号 19
		令和 4年 5月 26日
		午前・午後 2時 55分
議会名	令和 4 年 第 3 回 佐野市議会定例会	
発言者	議席番号 11 番 菅 原 達	
答弁を求める者 (選択してください)	市長、副市長、教育長、担当部局長	
一般質問時に使用する資料の有無 (選択してください)	あり(資料提示・資料配付・モニター使用) なし	
大項目 (質問項目) 中項目 (質問細目)	小項目 (具体的な質問内容)	
1. 危機管理型水位計について		
(1) 設置及び活用の状況について	① 本市の、中小河川における危機管理型水位計の設置状況及び活用状況について伺いたい。	
(2) 特徴とメリットについて	① 危機管理型水位計の特徴とメリットについて伺いたい。	
(3) 未設置河川への設置含めた増設について	① 市内全域で有用な水位情報を活用できるよう、危機管理型水位計の未設置河川への設置含めた増設が必要と考えるがいかがか、伺いたい。	
(4) デジタル技術の活用について	① 危機管理型水位計のデータを降雨量のデータ等と人工知能 (AI) で解析することにより情報の精度を上げる等、デジタル技術の活用により、より個別的で詳細な情報の発信に繋がれると考えるがいかがか、伺いたい。	
(5) 市民への周知について	① 迅速で的確な避難行動に繋げるためには、公的な避難情報を待つだけでなく、自らの判断による自助の行動も重要で、そのために必要な水位情報をスマホ等で確認できる事を、市民に周知すべきと考えるがいかがか、伺いたい。	

2. 地の利を生かした安全・安心な拠点づくりについて

(1) 大規模災害時の視点から見た本市の地の利について

① 本市は、東北自動車道と北関東自動車道が交差する高速交通の要衝である上、上下線のサービスエリアが隣接し、また民間のヘリポートも隣接し、陸路と空路の連結にも優れている。

さらに、港湾機能を有するインランドポートと、強固な地盤と豊富な地下水を有し、大規模災害時の視点から、他市にない地の利を有するものとするがいかかがか、伺いたい。

(2) 地の利を生かした安全・安心な拠点づくりについて

① 安全・安心な拠点は、単なる災害時の物流拠点としての役割に留まらず、ライフラインの継続性と事業の継続性までも担保するものであると考える。つまり、本市が有する地の利に加え、エネルギー供給の自立化としての自治体 PPS やバイオマス発電等による電源の継続的確保、石油備蓄等エネルギーインフラの確保により、災害時に安全・安心な拠点となり得るものとするがいかかがか、伺いたい。

② 災害時に安全・安心な拠点は、子育て世代から高齢者世代までのあらゆる生活者にとって、また、事業継続を求められる民間企業や公的機関等にとっても大きな魅力である。

災害時に安全・安心な拠点づくりによって、優位性をもって、若者をはじめとする首都圏等からの移住・定住を促すことができ、さらに、首都圏の重要な機能の移転や、災害関連分野等の優良な企業・機関等の誘致を促すことができるものとするがいかかがか、伺いたい。

<p>3. 犬伏街道など市街地の渋滞緩和について</p> <p>(1) 現状の把握について</p> <p>(2) ソフト面での対応について</p> <p>(3) 犬伏街道沿いの既存路線の整備について</p> <p>(4) 高速道路を活用した市街地の渋滞緩和について</p>	<p>① 佐野工業団地を対象に行われたアンケート調査結果を踏まえた現状把握について伺いたい。</p> <p>① 信号機の AI 対応、時差通勤やフレックスの活用、通行規制及び通学経路の見直し、それに伴う交通指導員の再配置等、ソフト面での対応でどこまで渋滞緩和に効果があるのか検討する必要があると考えるがいかがか、伺いたい。</p> <p>① 犬伏街道北側で東西に平行する既存路線の狭あい箇所の拡幅整備及び、犬伏町交差点付近の拡幅整備により、犬伏街道の渋滞緩和を図ることができるかと考えるがいかがか、伺いたい。</p> <p>① 市街地を挟んで市内の南北に立地する複数の工業団地と居住地域との間の通勤に伴う交通渋滞を緩和する方法として、市街地を迂回して南北を結ぶ高速道路を活用することで、交通量の分散を図ることができるものとする。</p> <p>そのためには、通勤時間帯に限り通行料の減免措置を設け、利用の促進を図る必要があり、利用者をはじめ、道路管理者、企業、行政等の協力が不可欠であると言える。</p> <p>道路の新設に多額の投資をするのではなく、既存インフラの有効活用により地域の課題解決に繋げる取り組みは、持続可能な街づくりの上でも重要であり、国と地方自治体、企業等が連携することで実現できるものとする。</p> <p>高速道路を活用した市街地の渋滞緩和についてどのように考えるか、伺いたい。</p>
--	--

4. 手話通訳者の育成支援について

- ① 手話奉仕員及び手話通訳者養成講座担当講師の養成における講座受講費用は、現在自己負担となっているが、今後のバリアフリー社会の構築を目指す上で極めて重要な手話通訳者の育成支援の観点から、市として全面的に助成すべきであると考えているがいかがか、伺いたい。